

1993～94年度のミニバラ栽培の問題点と94年度花卉類の生産と評価

谷村音樹

緒言

私は、唐湊果樹園で花卉の栽培管理を担当している。本報では、私が1993年に作成したミニバラ栽培の耕種基準となるべき栽培法の要点と、私が実施した栽培法の比較及び93～94年度のミニバラ栽培の問題点、今後の留意点並びに94年度花卉類（主として鉢物）の生産と評価について報告する。

ミニバラの栽培法の要点と実際の栽培法の比較（○ 耕種基準，◎実際の栽培法）

1、挿し木

- 挿し木は9月頃、本年生枝を使用し5cm位の枝の先端より2～3芽をつけて、葉を半分くらい切り落とし挿し穂とし、穂木の基部を斜めに切り鹿沼土を用土とする。鹿沼土は挿す前に十分湿らせておく。挿した後は必ず寒冷紗をかける。発根を良くするために発根剤（オキシベロン）を使用する。
- ◎挿し木用土に、市販のピートパンを使用した以外は上記とほぼ同じであった。

2、鉢上げ

- 挿し木後約1ヶ月ほどで鉢上げをする。鉢はポリ鉢3号を使用する。
- ◎上記と同じ。

3、鉢植え替え

- 鉢植え替えは鉢上げ後1ヶ月くらいで行う。生産仕上げ用としてプラ鉢4.5号に植え替える。
- ◎上記と同じ。

4、置き場所

- 日当たりの良い風通しの良い場所であること（夏は、日差しに弱いので寒冷紗をかける）。
- ◎日当たりの良い風通しの良い場所。夏は寒冷紗をかけなかった。

5、灌水

- 鉢土の表面が乾いたら、鉢底から水が流れるまでたっぷりやる。
- ◎新規に灌水装置を使用。各鉢に点滴灌水でタイマーを使用して定時的に灌水。

6、施肥

- 骨粉と油粕を1：1の割合で混合した肥料を1ヶ月に1回宛施用する。
- ◎骨粉と油粕を1：1の割合で混合した肥料と、液肥（ハイポネックス1000倍）を1ヶ月おき交互に施用した。

7、病虫害

- 病害は特に黒点病予防、害虫はアブラムシ、ハダニ等の重点防除にポイントを置く。
病気に気付いたらすぐに薬剤散布をする。
- ◎病虫害に気付いたら薬剤散布をしたが、病害の予防はなかなかうまくできなかった。害虫の駆除はほぼできたと思う。

（主に使用した農薬：病気にジマンダイセン、ラビライト、害虫にスミチオン、スプラサイド）

8、管理一般

- a 除草、中耕は、毎月1回実施する。
- b 出荷前までに咲いた花は全部摘み取る。
- c 枯れ葉、枯れ花は、即座に摘み取る。
- d 形を整えるために、枝と枝が重なったら整枝剪定を行う。
- ◎上記と同じ。

9, 生産計画

○生産計画は、年間平均500～1000鉢を常時生産することを目標とする。

◎生産を始めたばかりなので苗作りがうまくできず、約200鉢生産した。

ミニバラ栽培の問題点と今後の留意点

問題点は、病害を発生防止することと挿し木活着率の向上である。

今後の留意点は、病害が発生してから薬剤散布をしても品質向上にならないので予防をめざし定期的に薬剤散布を徹底して行う。

挿し木は、挿し木に適した品種の選択と挿し木に適した用土について実験し活着率80%以上を目標としたい。

今後は、年間平均1,000鉢以上の生産が出来るよう努力したい。

94年度花卉類（主として鉢物）の生産実態と評価

生産物名	生産数量	販売数量	金額	計画
ミニバラ	191鉢	63鉢	20,000円	①
ランタナ	834鉢	468鉢	119,000円	①
カランコエ	465鉢	0鉢	0円	①
バーベナ	360鉢	92鉢	29,700円	②
アイビーゼラニウム	100鉢	0鉢	0円	④ ×
ブルーベリー	1,000鉢	191鉢	128,900円	②
ツツジ	0鉢	66鉢	23,000円	③ △
アザレア	600鉢	33鉢	14,100円	②
サツキ	0鉢	18鉢	8,000円	③ △
シンゴニウム	120鉢	0鉢	0円	②
ジャノヒゲ	2,000鉢	0鉢	0円	②
その他	900鉢	275鉢	157,850円	②

その他 紅カナメ、ビックリグミ、サルスベリ、ツバキ、ゴモジュ、ソテツ、ハーブ、他

今後の生産計画 (① 今後増やしていく, ② 今まで通り, ③ 減らしていく, ④ やめる)

カランコエの販売は2月頃に行う予定。

評価

アイビーゼラニウムをやめる理由 ×：挿し木をしてもなかなか苗が増えない。苗が出来てもすぐ病気が発生して商品価値がなくなる。夏場を越す管理が困難。

ツバキ、サツキを減らしていく理由 △：即売会その他で販売しにくい。育苗期間が長すぎるため。

今後、アイビーゼラニウム、ツバキ、サツキを減らして、新しい種類を導入しようと思う。

ミニバラ、ランタナ、カランコエは今後増やして花卉花木類の主となる作物にしようと思う。